

失敗しないインプラント治療とは

あいり歯科クリニック
インプラント 小冊子

■【前 章】 ～歯でお悩みの方へ～

インプラントを行うメリットとは？

—はじめに—

みなさん、こんにちは。

あいり歯科クリニックの毛内(もうない)です。

みなさんは『8020 運動(はちまるにいまる運動)』をご存じですか？

これは、厚生労働省と日本歯科医師会が行っているキャンペーンで“80 歳になっても自分の歯を 20 本残そう”という運動です。

自分の歯を残すということは、生涯にわたり自分の歯で物が咬めるということ。つまりは健康で健やかな毎日を過ごせるということにもつながります。

「自分の歯は健康だから大丈夫」

中にはそう思っている方もいらっしゃるかもしれません。

しかし、お肌の曲がり角があるように歯にも曲がり角があり、35 歳を過ぎると歯周病になりやすくなります。さらに、不規則な生活や暴飲暴食などさまざまな要因により、大切な歯を失い、入れ歯や差し歯になる人が実に多いのです。

わたしは今までに多くの患者さまと接し、簡単な虫歯から重症な歯周病まで、さまざまな症例を診てきました。

できるだけ患者さまの要望を最優先させ、歯を残すために最善をつくしてきました。しかし、重症な患者さまとなるとそうはいきません。歯を抜いて入れ歯やインプラントにしなければならないのです。

歯を抜くことを知ったとき、ほとんどの患者さまは動揺し、不安な顔を見せます。

「なんとか残せませんか？」

「しばらく考えさせてください」

こんなことをおっしゃる方が、実にたくさんいます。

もちろん患者さまの歯の状態をきちんと説明するのですが、「入れ歯や差し歯にする」ということより、「自分の歯を失うこと」のショックの方が、とても強いのです。

抜けてしまった歯は二度と生えてきません。何らかの治療を行い、失った歯の機能を取り戻さなければならないのです。

わたしは一人でも多くの患者さまに、生涯にわたり自分の歯で美味しく食事をし、いつまでも健康でいて欲しいと願っています。

この小冊子を手にとった方は、きっと歯の悩みやトラブルを抱えている方だと思います。インプラントはそんなあなたの悩みを解決してくれる治療になることでしょう。

この小冊子では、あなたがインプラントを選択させる上で失敗しない医院の選び方や、インプラントについてのご質問もご紹介しています。

多くの方に読んでいただき、いつまでも健やかで幸せな人生を送っていただきたいと願っています。

少しでも、あなた様のお役に立てれば幸いです。

2009年8月 毛内伸威

—失った歯を取り戻すために—

歯が抜けて噛む機能が失われたとき、人工の歯を作り失った歯の機能を取り戻します。治療方法には“入れ歯”、“ブリッジ”、“インプラント”の3つがあり、患者さまの歯の状態などを考えながら最適な治療を選んでいきます。

それでは、それぞれの特徴を簡単にご説明しましょう。

まず、入れ歯があります。

患者さま自身で取り外すことができ、簡便な治療といえるでしょう。

入れ歯の一番のメリットは、ほとんどの患者さまに対処できるということにつきますでしょう。他の治療法に比べると簡単で治療期間も短く、保険を適用する場合は治療費も安くすみます。

入れ歯を入れた後、ブリッジやインプラントなどに変えることもできますので、仮歯として使うこともできます。

このように、最も身近な入れ歯ですが、いくつかのデメリットもあります。

まず一番に、健康な歯の状態に比べると、噛む力が極端に弱くなってしまうということがあげられます。

普通、わたしたちが物を噛むとき、歯には50kg～100kgの力が加わりますが、入れ歯になると20kg程度しか力が入りません。そのため固い物が咬めなくなってしまいます。

二番目には、簡単に外れてしまうことがあります。

形状が合わないと口の中で動いてしまい、ずれたり、ガタついたりします。中には歯茎と入れ歯との間に食べ物が入り、痛みを感じる、不快感などの症状を訴える場合もあります。

このほか、食べ物のカスが残るため、口の中が不衛生になりがちです。そのため取り外して手入れをする必要があります。また、細菌がつきやすく、口の粘膜の炎症や口臭の原因にもなります。

また、入れ歯は健康な歯に留め金を掛けて固定するため違和感があり、金具をかけた部分は痛みやすく虫歯の原因になります。

次に“ブリッジ”があります。

歯を失ったとき、両隣にある健康な歯を少し削り、人工の歯を被せる方法です。土台を作り固定させるので違和感が少なく、入れ歯に比べると安定していて、物をよく咬むことが

できます。また、義歯よりは見た目もきれいに仕上がりますので、審美性を重視する方に適しています。

一方、デメリットもいくつかあります。

まず、最大の欠点は隣の歯を削らなければならないということです。そのため支えとなる歯に負担がかかります。虫歯や歯の根っ子が痛む原因となり、将来的に歯を失うこともありえます。また、インプラントに比べると寿命が短く、7～8年程度しかもちません。

さらに、ブリッジの橋の部分と歯肉との間に食べ物のカスがたまりやすく、発音がしづらといったことがあげられます。

そして最後に“インプラント”があります。

インプラント治療は、世界中の多くの歯科医師が行っている、安全性が確立された治療法で、科学的にも認められています。

隣の歯を削らずにすむので、残っている歯に負担がかかりません。審美的、機能的にも優れています。また、治療法の進歩により以前は治療が難しかった症例でも、治療可能になってきました。

このように、治療方法は一つではありません。それぞれのメリット・デメリットを比較し、患者さまの歯の状態を調べた上で、最適な治療方法を選んでいただきたいと思います。

■【第1章】インプラント治療で失敗しないために

—インプラントとは？—

—昔前までは、歯が抜けた後の処置は入れ歯やブリッジが主流でした。もちろんインプラントを受ける方もいらっしゃいました。

しかしインプラント治療には外科手術が伴います。専門的な設備と優れた技術力が求められるため、ごく一部の病院でしか治療が受けられませんでした。そのため、“インプラント”と聞いてもあまりピンとこない方も多かったと思います。

しかしここ数十年の間に歯科医療技術はめざましく進歩し、それに伴いインプラント治療を行う歯科医院も増えてきました。また、インターネットなどで“インプラント”情報が簡単に手に入るようになり、インプラントを要望される患者さまが多くなってきています。

いまやインプラントは、入れ歯やブリッジに変わり、抜けた歯を補うための治療法として第一候補にあげられるまでになっています。

ところでインプラントはいつ頃から始まった治療法なのでしょうか？

ここでインプラントの歴史について、簡単に触れてみたいと思います。

インプラントは、1965年、スウェーデンの学者・ブローネマルク教授が開発しました。

顎の骨にチタン製の人工の歯根を埋め込み、それを土台にして人工の歯を装着します。隣の歯を削らないので、ほかの歯に負担がかかりません。審美的、機能的にも優れた最新の治療法です。

ほかの治療法に比べ耐久性に優れ、1965 年前に初めて治療を受けた患者さんは、2006 年に亡くなるまでの 42 年間、インプラントを使用していました。また、治療を受けた 95% の方が、10 年以上機能しています。

このようにインプラントは科学的に認められ、さらに安全性も確立されています。優れた治療方法であるからこそ、世界中の多くの歯科医師がインプラント治療を行うのですね。

—インプラントのメリット・デメリット—

インプラントはほかの治療法に比べると、治療後の違和感が少なく、食べ物がしっかり噛めるようになるなどのメリットがたくさんあります。しかし、その一方で、手術や費用面など、いくつかのデメリットもあります。

=インプラントのメリット=

その1 違和感が少ない

天然歯とほとんど変わらない感覚を再現することが可能で、歯を失ったことによる食べ物の制限、不快感など、さまざまな不満や悩みが解消されます。

その2 物がよく噛めるようになる

天然歯と同じように機能するので、物がよく噛めるようになり、味覚も低下せず、美味しく食べられます。また、よく噛めるようになることで免疫力が高まります。さらに脳が刺激され頭の回転がよくなり、老化防止にもつながります。

その3 自分の歯と同じ

最新の歯科技術により、歯冠の色や形を自分の歯と同じように作ることが可能です。また、しゃべるときに言葉が漏れたりすることがありません。

その4 周りの歯に負担をかけない

インプラントは義歯やブリッジに比べ、歯を削ったり周りの歯に負担をかけたりしません。歯の寿命が大幅に伸び天然歯を守ることになります。

その5 耐久性に優れている

90%以上の方が10年以上機能しているといわれます。ただし、顎骨の状態やメンテナンスの有無などで寿命は異なってきますので、治療後のメンテナンスをしっかり行ってください。

その6 しっかり物が咬めるようになる

インプラントにすることで咬み合わせが良くなり、しっかりと物を咬むことができます。口の周りの筋肉が発達するので、シワも目立たなくなります。

その7 若返り効果

インプラントをすることにより、治療後は5～10歳若返るとも言われています。唾液の中にパロチンという若返りのホルモンが含まれています。しっかり咬むことにより唾液が増えるので、アンチエイジング効果も期待できます。外見的にも自然の歯に近い状態に回復し、口もとが若返ると表情が明るくなり、生活自体が若々しくなります。精神的にも大きなプラス作用となります。

=インプラントのデメリット=

その1 手術が必要

手術というと怖いイメージがありますが、歯を抜く程度ですからそんなに大変ではありません。しかし外科手術を行いますので、最低限のリスクが伴います。医師の技術が不足していれば、神経麻痺などを起こす可能性がありますので、信頼のおける歯科医師を選びましょう。

また、全身的あるいは局所的な病気が原因でインプラントができない方もいます。そのような方でも、手術中に麻酔科医が管理することで手術可能な場合もあります。事前に歯科医と相談してください。

その2 保険が適用できない

インプラントにすると、なんでも咬め、楽しく食事ができるようになりますが、治療には保険がききません。

その3 治療期間が長い

インプラントを入れる本数や骨の状態によっても異なりますが、治療期間は4ヶ月～1年です。骨の条件がいい場合は、その日のうちに歯を入れることも可能です。

—より安全な治療を受けるために—

インプラントを行なっている歯科医院はたくさんありますが、その技術レベルには大きな差があります。

最も大切な事は、歯や顎の状態を調べ、口腔内を総合的に判断し、最適な治療方法を提案し、患者さまの同意の下でしっかりした治療を行っていくことです。

中にはインプラントを希望されても、適さない場合があります。そのようなときは、現状をきちんと説明し、他の治療方法を提案してくれる歯科医院を選んでください。

医師の技術レベル、使用する機器の質も勿論大切ですが、最終的に治療の成功に導くのは患者である皆さまです。

だからこそ、最高のパートナーとしての歯科医院を選ぶことが大切なのです。

—よりよい歯科医院を選ぶ秘訣—

あいり歯科クリニックでは、5つのインプラントコンセプトをもとに、診療を行っています。

1. インフォームドコンセント—患者さま中心の医療

主役はあくまでも患者さまご本人です。症状や治療方針、それに伴うリスクを正しくお伝えし、患者さまの意思を最優先した治療を行います。

2. より美しく、より機能的に

インプラントの治療には、物が噛める“機能面”と整った歯の“美しさ”が求められています。患者さまにとってより快適で美しい治療を行います。

3. 患者さまとのコミュニケーションをしっかりとるよう心がけています。

患者さまの不安を取り除くために、患者さまとのコミュニケーションを心がけ、納得するまでご説明いたします。

4. ゴールを確認する

満足のいく治療を行うにはお互いの意思疎通が重要です。最終的な治療方針を確認した上で治療を進めることが、ゴールへの近道だと考えています。

5. 治療計画の見直し

手術中にインプラントが適応できないことがあります。そのようなときは、すぐに治療計画を見直し、患者さまに現状と今後の治療方針を説明していきます。

トラブルが起こったとき、一番困るのは患者さまです。気になる点は、どのようなことでも相談することが大切です。

■【第 2 章】インプラント治療の流れ

—インプラント治療の流れ—

インプラント治療は診察・診断からはじまり、約 2 回の手術を行ないます。

1. 問診

歯を失った経緯や、どのようにしたいかなどを事細かくヒアリングします。

2. 検査・診断

レントゲン撮影、歯周病の診査、歯の模型などを採取し骨の状態、歯肉の状態、咬み合わせの状態をチェックし、インプラントができるかどうか調べます。

3. 治療計画

診査・診断をもとに、治療計画を立て患者さまに治療計画を説明します。同意をいただけない場合は再度違う治療計画を提示し患者さまの同意を得ます。

4. 術前治療

お口の中の診査、レントゲン診査、症状に応じて「仮の歯」準備のための型とりなど、治療開始のための準備を行います。状況に応じて、歯周病の治療や咬み合わせの治療など、インプラントを行なうにあたって必要な処置を行ないます。

5. 1 回目の手術－埋入手術

「インプラント埋入手術」を行います。インプラントの根の部分(フィクスチャー)を顎の骨に埋め込み、必要に応じて「仮の歯」を装着します。

手術の際は安全を第一に滅菌処理された器具と術着を着用し、患者さまの上にもドレープ(覆布)を掛けて行います。

6. 消毒、抜糸(埋入処置後、7～10 日後)経過のチェック

7. 2 回目の手術－つなぎ目をつける

歯となる部分とのつなぎ目(アバットメント)をつけ、仮歯となる型を取ります(埋入処置後、約 3 ヶ月～6 ヶ月後を予定)。後日、仮歯をつけます。

8. 人工歯をかぶせる

仮歯を外し、最終的な歯の形の型をとります。後日、完成した人工の歯（上部構造）をつけます。

9. メンテナンス

治療終了後も、継続的なメンテナンスが必要です。

—インプラントを長く持たせるために—

インプラントは骨と馴染みやすく優れた素材ですが、人工で作った土台は人間のからだにとっては異物です。お口の中の状態が健康であれば骨の中でしっかり定着します。しかし周囲の歯肉が歯周病になると、異物を排除しようと免疫機能が働き始めるのです。

そうなると大変です。普通の歯周病よりも早い速度で骨が溶けだし、せっかく入れたインプラントまで抜け落ちてしまいます。

それでは、インプラントをいつまでも使い続けるにはどうしたらいいのでしょうか？

それには、定期的なメンテナンスと歯周病予防がとても重要です。

毎日の歯磨きを基本に、たまった歯石は歯科医院で取り除いてもらいます（スケーリング）。また、定期的に歯医者さんに行き、インプラントに異常がないか点検してもらいます。メンテナンスをしっかりと行うことで、10年以上長持ちする方も多いです。

インプラントでいつまでも自分の歯で食べられる喜び、健康でいられる幸せを味わってください。

■【第3章】インプラントのお悩み解決Q&A

Q: 歯が抜けたあと、インプラントにする時期はいつ頃がいいのでしょうか？

A: すでに歯が抜けてしまっているケースと、これから抜歯をする場合では、インプラントにするタイミングが異なってきます。

すでに歯が抜けてしまった場合は、歯並びや噛み合わせが狂ってきますので、できるだけ早くインプラントにした方がいいでしょう。

また、これから歯を抜く場合は、すぐインプラントを入れた方がいいケース、人工の骨を入れてからインプラントを入れた方がケースなど、骨の状態などにより異なります。

最終的な治療方針が決定したあとで、歯を抜くタイミングを決めるといいでしょう。

Q: インプラントに向いているのはどのような場合ですか？

A: 歯を失ってしまった場合、それを補うさまざまな選択肢があります。インプラントをしたけれど、本当に自分にむいているの？などと、疑問に思っている方も多いでしょう。

参考までにインプラントにした方がいいケースあげてみました。ご自分にあてはめてご覧ください。

- ・差し歯(ブリッジ)にするために、隣の歯を削りたくない
- ・入れ歯やブリッジの素材にアレルギーがある
- ・差し歯や入れ歯では、見た目が良くならない
- ・堅い物でもしっかり噛んで食べたい
- ・入れ歯がよく動く、外れる、うまく噛めない。
- ・入れ歯を入れると違和感や痛みがある、または吐きそうになる
- ・食べ物の味が変わる
- ・入れ歯やブリッジでは発音しづらい。

Q: インプラントは誰でも受けられますか？

A: 患者さまの健康状態によっては、やむを得ずインプラント以外の治療法を行うことがあります。インプラントが受けられないケースは、主に次のような症状があるときです。

- ・重度の心臓病や糖尿病、骨粗鬆症、全身的に重い病気があり手術が受けられない方
- ・ヘビースモーカーや定期検診を受けない、あるいはブラッシングをしない方
- ・顎の骨が不足している方
- ・歯ぎしり・食いしばりが激しい方
- ・チタンアレルギーがある方

このほか18歳未満や妊婦(出産後であれば問題ありません)はインプラントを受けることができません。

なお、全身的な病気がある方でも、十分にコントロールされていれば、インプラントを選択することも可能ですので、一度専門医に相談してください。

Q:ある歯医者さんに相談したら、「骨の量が少なくてインプラントできない」と言われました。どうしてもインプラントにしたいのですが、どうしたらいいのでしょうか？

A:顎の骨の量が少ない場合は、骨を移植(骨移植)して再生する方法があります。

骨移植と聞くと、少し怖いイメージを抱く方も多いかもしれませんが、100年も前から行なわれている治療法です。歯科の分野でも、インプラントという新しい技術が発展したため、骨移植がよく行なわれるようになりました。

Q:夜中に歯ぎしりをしているといわれますが、インプラントに影響は出ませんか？

A:インプラントが抜ける原因の一つに、夜中の歯ぎしりがあります。

歯ぎしりは睡眠中に上下の歯をこすり合わせるため、歯やインプラントを痛めてしまいます。これが原因で、自分の歯やインプラントに被せた歯が割れたり、インプラントが抜けたりすることさえあります。

歯ぎしりはかみ合わせのストレス、精神的なストレスなどが原因で起こるため、意識的に止めさせることはできません。そこで周りの歯を保護するためにマウスピース(スプリント)を入れ、歯やインプラントへの負担を和らげます。

Q:インプラント手術を受けるときの注意を教えてください。

A:まず、しっかり歯磨きをし、お口の中を清潔にしてください。また、女性の方はお化粧(特に口紅)を必ず落としてください。

喫煙はインプラントにも大きな影響を及ぼしますので、当日の喫煙は控えてください。

Q:手術後にはどのような点に注意すればいいのでしょうか？

A:インプラント手術後は、次の点に注意してください。

1. 出血は約 24 時間続きます。明朝くらいまでは、唾液に血がにじむ程度の出血が予想されますが、唾液に混ざる程度なら心配ありません。気になる様でしたら、綺麗なガーゼを丸めて 30 分程度しっかり噛んで下さい。気にして唾液を吐き続けたり、傷口を吸ったり、うがいをしたりすると止まりにくくなりますので、気をつけましょう。
2. 激しい運動・長湯・飲酒・タバコは 1 週間お控え下さい。シャワー程度ならかまいません。
3. 麻酔が効いていますので、頬や口唇を噛まないように気をつけてください。個人差もありますが、約 2 時間程度で麻酔がきれ、患部の痛みがでてきます。食事は麻酔が覚めてから、食べやすいものをしっかり食べてください。

4. インプラントを入れた部位では強く噛まないように気をつけ、できるだけ手術部位とは反対側でかんでください。
5. 処方された薬は指示通り服用して下さい。
6. 手術をした翌日から1日4～5回うがい薬でうがいをしてください。手術箇所以外は、翌日から通常通りに歯磨きをして大丈夫です。手術部位は抜糸を行ってから、できるだけ軟らかいブラシで行ってください。
7. 手術2～3日後が最も腫れ、手術によっては1週間続く事もあります。氷などで冷やすといいでしょう。ただし過度の冷却は逆に傷の治りが悪くなりますので注意してください。ひどい痛み・出血・薬が合わない場合は、必ず歯科医院に相談しましょう。
8. 痛みが無い、薬はあまり服用したくない等の理由から薬の服用を嫌がる方がありますが、感染予防のため必ず服用してください。痛みが強い場合は鎮痛剤のみを追加しても大丈夫です。ただし服用時間は8時間以上あけてください。何か異常がありましたら、直ちに服用を中止し、歯科医師にご相談しましょう。
9. 入れ歯を入れている方は手術部位に負担がかかりますので、1～2週間は入れ歯を使用しないで下さい。

10. 上顎奥歯の手術を受けられた方、上の奥歯にインプラントを入れ方などは、鼻血が出るがありますが心配はいりません。また、一ヶ月ぐらいは強く鼻をかむことや激しくしゃみはできるだけおやめ下さい。
11. 術後まれに手術部位などに皮下出血(青痣・黄痣)が見られることがあります。通常 10 日～4 週間以内に消失しますのでご安心下さい。
12. まれに下唇にしびれが残ることがあります。通常、10 日～4 週間以内に消えるのでご安心ください。

■【第 4 章】インプラントでいつまでも健康に

—成功率 98%の極めて高い技術力—

インプラントの最大の目的は、健康な歯を手に入れ、自分の歯で食べ物をしっかり噛めるようになることです。どれだけ長い間、インプラントを使い続けられるかが重要になってきます。

あいり歯科クリニックのインプラント手術は、成功率 98%。極めて高い技術力を誇っています。また、装着後の寿命も長く、定期的なケアを行うことで、長年機能している患者さまが多くいらっしゃいます。

インプラント治療には高い技術力が要求されるのです。

装着後は、物を噛む力加減が難しくなるため、人工歯根の本数や噛み合わせなどを考慮し、総合的な治療計画が必要となってきます。

ごくまれに、インプラントが破損することがありますが、これは噛み合わせなどを考慮せずに治療計画を立てたことが原因です。

あいり歯科クリニックでは、噛み合わせにも配慮した治療を行っておりますので、力のコントロールでインプラントを破損させることはございません。ご安心ください。

インプラント治療で最も大切なのは、治療終了後のメンテナンスです。

定期健診とご自宅での歯磨きなどのセルフケアは欠かせません。メンテナンスを行うことで、インプラントや周りの歯も、いつまでも健康でいられるのです。

また、歯周病になると進行が早く、放っておくと骨が溶け出し、全体の歯にダメージを与えていきます。歯周病予防のためにも定期的なクリーニングをおすすめします。

—世界中で最も使われているインプラントを使用—

あいり歯科では、世界的に多くの歯科医が使用している『3i インプラント』を使用しています。

現在使用しているインプラントでも、メーカーによっては何年か後に製造中止になることがあります。そうなったとき、同じ部品を手に入れることは困難です。

万一、施術したインプラントが破損した場合、交換部品がないため新たに違うメーカーのインプラントを入れなければなりません。

このようなことを防ぐために、あいり歯科クリニックでは、アメリカでシェアNO.1の『3iインプラント』を主に用いています。

これは、ラザーラ博士が開発したもので骨との相性がよく、従来のものに比べより精密で機能的なインプラントです。

1999年、米国FDA(アメリカ食品医薬品局※)から『骨が不良な部位における治療実績を改善した唯一のインプラント』として認められています。

品質および技術力ともに優れたインプラントですので、ご安心ください。

※FDA(アメリカ食品医薬品局)

アメリカ政府機関で日本の厚生労働省と同じ役割がある。食品や化粧品、医薬品などの認可や安全性などの取り締まりを行っています。

—インプラントの保証制度—

あいり歯科クリニックでは、インプラントの保証制度を設けております。万一、装着後に作り直しが生じた際は、費用の一部、あるいは全額を当院が負担いたします。

- ・8年以内の作り直し → 患者さまのご負担は1割
- ・3年以内の作り直し → 無償

これには6ヵ月に一度、定期検診を受診していただくことが条件となります。

ただし、次のような場合は患者さまのご負担となります。

- ・患者さまの重大な不注意や外傷など、明らかに当院の責任ではない場合
- ・無理な使用や当院の指示に従って頂けなかった状態での使用
- ・リコール(定期健診)に応じてくださらない場合
- ・診療時に予測できなかった口腔状態の変化があった場合

—インプラント無料相談—

当院ではインプラントについてお悩みやご質問のお答えする、インプラント無料相談を行っています。インプラントについてご不明な等がございましたら、お気軽にご相談ください。

なお、無料相談につきましては予約制となっております。

お電話にてご予約の上、ご来院下さいますよう、よろしくお願い申し上げます。

—おわりに—

私は大学病院で歯科医として 10 年間勤務しておりました。

病院にはおよそ 30 名の歯科医師と 25 台の診療台があります。

スタッフ、設備ともに充実し、遠方からインプラント治療に来る患者さまもいるほどです。

院内のあちこちでは、毎日のようにインプラント治療を行っている先生がいました。

大学病院では一人の患者さまを治療するとき、先生方の間で“カンファレンス”を行います。これは症状や治療方法などを検討し、今後の治療方針を決定するものです。

わたしも多くの“カンファレンス”に参加し、たくさんの症例を診てきました。

多くの成功例を診てきた一方で、いくつかの失敗例にも立ち会ってきました。

わたし自身、治療した患者さまのインプラントが 1 本抜けてしまった失敗経験があります。

この経験を通じ、『歯を失った原因を探ることが何よりも重要』ということ学びました。

歯が抜けたところにインプラントを入れるだけでしたら、何かの拍子に抜けてしまうことがあります。それを防ぐためには原因究明が必要なのです。

歯が抜けたのは歯周病なのか、虫歯なのか。あるいは事故に遭ったためなのか。原因を突き止めその原因を明らかにし、再発が起きないように対処します。

また当然の事ながら、歯が抜けたところだけではなく、口の中全体を診てどのような咬み合わせにしたなら長く持つのかなどを検討し、個々の患者さまに合った治療計画を立てます。

わたしは、インプラントを入れることが目標ではなく、インプラントを入れた後、いかに快適に長く食事ができるかが大切だと考えています。

そのため、ゆっくり時間をかけ、顎の骨の動きや噛み合わせを確認しながら治療を進めているのです。

わたしが行うインプラント治療は、ほかの先生方にくらべると、決して短いとは言えません。症例によっても異なりますが、治療が終わるまでに2年以上かかることもあります。

大学病院時代、患者さまから「毛内先生の治療は長いけれど、長い間もちますね」と言われたこともあります。治療に満足してくださった患者さまの感謝の気持ちと受け止め、今後の励みとなってきました。

歯を失ってしまったすべての患者さまにインプラントを入れていただきたいと願っています。

しかしながら、そのような患者さまであっても、診断した結果、ほかの治療法がベストな場合もあります。そのようなときは、患者さまとよく話し合い、もっとも患者さまに適した治療法を提示していきます。

健康な歯を取り戻した患者さまとともに、喜びを味わえる歯科医でありたいと思っています。

[連絡先]

あいり歯科クリニック



無料カウンセリング・ご予約はこちらまで : 03-3316-5614

〒166-0011
東京都杉並区梅里 2-3-7 2F

■ 診察時間

月～金 AM 9 : 30～1 : 00 PM 2 : 30～7 : 30
土曜日 AM 9 : 00～1 : 00 PM 2 : 30～5 : 00
休診日 木・日・祝日

URL: www.airi-dc.com